

令和3年度 第1回 大崎町総合教育会議 会議録

1. 期 日 令和3年8月25日（水）

14時から

2. 場 所 役場庁舎2階応接室

3. 出席者 東町長

藤井教育長

溝口教育委員・二見教育委員・吉田教育委員・小野教育委員

【構成員】

管 理 課（上野課長・井元係長）

社会教育課（宮本課長・鎌田課長補佐）

【事務局】

総 務 課（上橋課長・渡邊課長補佐）

4. 会次第

（1）開会

（2）町長あいさつ

（3）協議

1）令和3年度教育関係予算の概要について

2）町政紹介について

3）その他

（4）閉会

【協議内容】

(1) 開会・・・総務課長補佐

お時間の方がまいりましたので、ただ今から令和3年度第1回目の大崎町総合教育会議を始めさせていただきます。私は総務課の渡邊と申します。よろしく申し上げます。開会にあたり東町長よりごあいさつをお願いいたします。

(2) あいさつ・・・東町長

皆さんこんにちは、一言ご挨拶をさせていただきます。

本日は令和3年度の大崎町総合教育会議を開催いたしましたところ皆様には貴重なお時間をさいてお集まりいただきましてありがとうございます。

教育委員の皆様方には本町の学校教育や一般行政政策にご協力頂きありがとうございます。毎年教育総合会議は年度始めに開催される事になっておりますが、昨年は6月20日過ぎに開催されていましたが、今年は新型コロナウイルスの関係で密になる事や注意する事があり遅れてきたと捉えています。

今年は梅雨の時期に大きな災害がなく、梅雨明け後に全国各地、九州や広島に線状降水帯により大災害が発生いたしました。例年こういう事が繰り返されている今の時代、地球温暖化の影響により災害が発生しています。昨年は本町でも大災害が発生し、持留地区、鹿屋市、野方、曾於市など線状降水帯が発生し、持留でも過去になかった災害が発生しました。

盆地のような地形で崖が多くシラスが道路に流れ出し初めての体験でした。田んぼや用水路、排水路の土砂撤去作業を早急にやらなければ場所に行けませんでした。担当は耕地課でしたが、事業を早くしながら、今年の水稲の作付けに間に合うように対策を行いました。地すべり等、崖がむき出しになっている所が多数あり、中々早急な復旧が難しく、現在下持留においても県が執行している部分もありますが、災害の種類によっては町がやらなければいけない部分もあり、町の方でも対応しているが、今入札を執行しこれから工事に入る状況でございます。

田原川においては、橋が二橋流れましたが、入札は執行し完成は令和4年度、令和5年度になる状況です。住民の皆様には、なぜこんなに遅いのかと言われ、早急に復旧して次の雨に備えたい思いもありますが、行政システムの中で、県の査定や指導を受けたり、国の査定や予算の配分の査定だったり期間が長引いて、町民の皆様方に中々ご理解得られない所でもあります。

もう一つは、災害が多すぎて業者が仕事をしきれない、次々仕事を受けて貰ってる状態で工事が中々進みにくい、複数現場を抱えて進みにくい原因になっています。大崎町のみならず他自治体でも災害が発生しており、町外業者の余裕がない事も一因になっている状態もあって、災害対策が遅れている事をご理解頂きたいと思います。

冒頭でもお話させて頂いた2020年始め頃、新型コロナウイルスが発生し、こんなに長引くとは思わず、ますます毒性が強まりデルタ株が蔓延し未だに続いている状況です。鹿児島県においてもまん延防止等重点措置が発令され、飲食店も営業、酒類提供自粛により厳しい状況が続いています。

本日の日経新聞によると、全世界感染者数が2億1千250万人に上り、亡くなられた方も444万人、国内においても134万3千人の感染、県内においても7千人を超えている。もちろん退院された方もいらっしゃるが、大崎町も今日の新聞によると31名と、なるべく感染者を出さないようにしているが、デルタ株が感染力が強いつつ、どこで感染するか分かりません。本庁でも感染者が出て症状を聞いたりしたが、割れるように頭が痛く、どうにかなるのではないかと聞いたり、熱発から急性肺炎になったり、当事者にしか分からない苦しみがあります。職員は回復したが、デルタ株の中では死亡者も出ることもあります。

最近では、若年層の感染が広がり、どういうメッセージを出せばいいのか日々考えているが、不要不急の外出の自粛、飲食の自粛のお願いを続けることしかないのか、と思っております。今日の新聞で夏休みをどうするか、学校をどうするか気になっていますが、鹿児島市や薩摩川内市は検討に入っています。子供たちが学校を楽しみにしてきた中、コロナで休校にするのは心苦しく学びの場や友達に会えないなど、子供たちの場が犠牲になってはいけません。なるべく休校など日常生活の中で手洗いうがいを励行し、家庭でも徹底してもらい、また飲酒関係で感染しバーベキューなど自粛してもらいようなメッセージを発信し、コロナ下でも子供たちの教育環境が順調に行くように考えます。今は大切な時期でありますので、その旨発言させて頂きました。

今日は協議が2つありますが、例年予算関係説明で、ご理解されていると思っておりますが、職員の方と進めて紹介させて頂きます。どうぞよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

(3) 協議・・・総務課長補佐

続きまして協議に入りますが、総合教育会議の設置要綱第3条の規定により議長を町長にお願いいたします。

議長（町長）

早速協議に入りたいと思いますので、ご協力方よろしく申し上げます。
まず（1）令和3年度教育関係予算の概要について入ります。

総務課長

総務課長の上橋です。本日はよろしく願いいたします。

私からは町全体の予算概要などについて説明させていただきます。

それではお手元に配布させていただいております「広報おおさき」の6ページをお開きください。

令和3年度の一般会計予算は、103億7,770万2千円で、対前年度比約20億5千万円の増となっております。増額の主な理由は、ふるさと納税寄附金の増でございます。

ページ中ほどに歳入の内訳を円グラフでお示ししておりますが、こちらは一年間の収入見込額でございます。その中で一番大きな割合を占めるのが、ふるさと納税寄附金等のその他収入で、32%を占めております。2番目が国から交付される地方交付税で、収入の22.8%を占めております。

次に大きい割合を占めるのが、国や県からの支出金で、国・県合わせた収入の割合は、20%となっております。町税は約12億円で、収入割合は、11.8%でございます。

歳入全体で見えますと、国や県などから交付されるお金の割合が約50%を占めている状況でございます。

7ページの歳出のグラフをご覧ください。こちらは今年度、執行する予定の事業費を費目ごとに表したのになりますが、支出割合を見ますと、ふるさと納税をはじめとした商工業振興に関する商工費が一番多く、一般会計に占める割合が29.8%となっております。次に大きい割合を占めるのが、子育て支援や高齢者・障がい者の福祉に関する費用でございます。民生費となり17%となっております。

一方、教育費は、約5億で割合にしますと5.1%でございます。

昨年度と比較いたしますと、約5億円ほど減額となっておりますが、これは中沖小学校の大規模改修工事が完了したことによるものでございます。なお、教育費の詳細は、後ほど管理課長と社会教育課長から説明させていただきます。

ページの右下に貯金と借金のバランスをお示ししておりますが、青色が町債、いわゆる借金の残高で、緑色が貯金にあたる基金残高になりますが、平成27年度は、借金80億円に対して貯金が32億円であったものが、令和3年度は、借金が60億円で貯金が62億円となっており、初めて貯金が借金を上回る状況となっております。以上が当初予算の概要となります。

なお、参考として2年度に実施した事業の紹介をさせていただきたいと思っております。本日の資料の1ページをお開きください。防犯カメラ設置事業でございます。

設置までの経緯ですが、子供たちの防犯対策として、学校や警察などの関係機関の要望や意見を聞きながら設置個所を選定し、資料に記載のとおり、小・中学校付近に11ヶ所設置いたしました。

事業費は、435万6千円で、カメラ機能は約200万画素、24時間連続記録を行い、常に最新の14日間の映像を保存できるカメラとなっております。

下に載せてある写真は、大崎小学校の正門側を映した画像になりますが、今年4月には事件・事故等が発生したときに防犯カメラの映像を活用できるよう、志布志警察署とも協定を締結したところでございます。

次に2ページをお願いいたします。

こちらは、コロナ感染症対策として国から交付された交付金を活用した教育委員会関係の事業内訳になります。

昨年度、国から交付された交付金の額は、約3億9千万円で、そのうち教育委員会部局には約1億9百万円を充てております。

令和2年度中に完了した事業は、資料の1番から14番までになりますが、資料の下の方にお示ししている4つの事業については、完了が3年度までずれ込む事業となっております。実施事業の詳細については、資料でご確認いただきたいと思います。

以上で説明を終わります。

管理課長

令和3年度の教育委員会管理課の施策方針、予算の概要について説明いたします。

大崎町教育行政の基本方針である「おおらか・さわやか・きわやかな大崎の教育」をめざし、学校・家庭・地域のそれぞれの教育力を様々な方向から総合的に高める取り組みを推進していきます。

まず、今年度の予算についてご説明いたします。当初予算は3億8,705万3千円で、前年度と比較すると4億8,314万7千円の減であります。減となっている要因は、中沖小学校校舎等大規模改造工事の完了によるものであります。

それでは、事業の概要について説明いたします。

まず、①学校関連予算では、不登校支援業務委託は、地域おこし協力隊として勤務して頂いていた●●さんに、今年度も大崎中学校のかけはしサポーターとして生徒の悩み相談業務、不登校生徒への対応などを業務委託するもので、297万6千円を計上しております。

ストレスチェック制度支援業務は、町内全学校の職員を対象にストレスチェックを行うもので、26万6千円を計上しております。「労働安全衛生法」の法律改正に伴い、年1回ストレスチェックの実施が義務付けられたもので、平成29年度から先生方も対象に実施しているものです。

次に施設整備ですが、トイレの洋式化率の低い大崎小、菱田小、持留小学校のトイレ洋式化工事に1千400万円を計上し、この夏休み期間中に大崎小と菱田小は工事が完了する予定であります。持留小につきましては2学期中の工事完了予定となっております。

それから、大丸小学校に設置しております緊急地震速報機器の更新に39万6千円を計上しております。

ICT教育関係ですが、ICT支援業務委託につきましては、機器の操作支援やメンテナンス、トラブル等に対応できるよう、支援員を配置いたしました。

次に②家庭関連予算について説明します。

子育て世帯の経済的負担の軽減、子育て支援の充実、義務教育の円滑な実施を図ることを目的としています。

遠距離通学補助として、44万円を計上しております。保護者の教育費負担の軽減を図るために、遠距離通学をしている児童の保護者に補助するものです。

中学生入学援助事業、中学校に入学する生徒の保護者に対して制服等購入費として、生徒1人に対して3万円を一部助成するもので、支払いにつきましては、既に済んでいるところです。

学校給食費補助金でございますが、給食費の一部助成は、平成30年度から一人当たりひと月2千円を助成しております。給食費月額にすると小学生の4,050円が2,050円に、中学生の4,900円が2,900円になります。また、地産地消食材購入として、85万円を計上しております。

中体連地区大会送迎バスへの予算措置につきましては、保護者の経済的負担軽減などを目的として、中学校体育連盟が主催する地区大会出場時の選手輸送マイクロバス借上げを新たに計上いたしました。

中学校英語検定料補助金は生徒の学力向上や保護者の経済的負担軽減を目的として、中学生が英語検定を受検する際の検定料の助成として計上しました。

リサイクル未来創生奨学金償還補助金、平成30年10月に『大崎町で育った人材が勉学に励む事を支援し、故郷の活性化を担う人材に成長し、再び大崎町に定住し、活躍する事を促進するために創設されたこの奨学金制度ですが、令和3年5月現在46名の方が利用されております。今年度の補助金は、貸与額の利子相当分27万9千円を計上しております。

次に、③地域との連携について説明します。

平成28年度から2年間、大崎中学校をモデル校としてコミュニティ・スクールの導入を行いましたが、30年度から町内全小中学校を指定し、学校運営協議会を設置しているところでございます。これは学校・地域・家庭がともに知恵を出し合いそれぞれの責任と役割を担い、地域とともにある学校をめざすことによって、最終的には地域の活性化を図ることが目的です。今年度は10月に合同研修会を実施する予定であります。

学習拠点づくり事業につきましては、児童生徒の学習機会の場を創出するため、学校運営協議会へ補助するものであります。

次に、業務改善、その他の取り組みですが、教職員の業務改善として平成30年度から実施しているところでございます。8月10日から16日までをリフレッシュウィークとし、8月10・11・12・13・16日を完全閉庁といたしました。

4ページに令和3年度のふるさと応援基金充当事業の一覧表を付けております。

この一覧につきましては、教育費に係る充当事業を記載しております。

詳細につきましては、それぞれご確認いただきたいと思います。

以上で説明を終わります。

社会教育課長

こんにちは、社会教育課の宮本です。私の方からは社会教育課の関係予算について説明をさせていただきます。宜しく申し上げます。資料の5ページをお開き下さい。

社会教育課では、「人間性豊かでたくましく生きる、輝く人づくり」を基本目標に、住民が健康で楽しく人と関わりながら生きがいや自己実現をめざし、生涯を通じて学び活躍できる環境づくりとスポーツ・文化の振興を図ることとし、本年度1億4千169万4千円を計上いたしました。

対前年度では7千329万8千円の減額となっております。

減額的主要因は、国民体育大会の関連経費の減額によるものでございます。

それでは資料の概要について説明いたします。

①の生涯教育関連予算でございます。生涯学習推進体制の充実を図るため、本年度は6月から生涯学習講座を21講座開設して実施しているところでございます。

また、社会教育講座につきましては、女性講座を7講座、高齢者講座を3講座、それぞれ5月から開講しております。これに伴います予算として、生涯学習講座の講師謝礼に123万円、社会教育講座の講師謝礼に15万7千円を計上いたしました。

また、本年度の講座の受講生につきましては、生涯学習講座に179名、女性講座に113名、高齢者講座に65名、合計で357名の方に参加を頂いております。

次に青少年活動事業の充実を図るため、青少年活動事業補助金として196万円を計上いたしました。遊びの学校をはじめ、アメリカ村インおおさき、サマーアドベンチャーなど10種類の事業を計画しておりますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、キッズセミナーにつきましては、今年度は中止といたしました。

次に、「人権教育・啓発、家庭教育・地域の教育力の充実」でございますが、保護者が子どもの教育をする心構えや、子どもの接し方など教育上の留意点などを集団で学習する場として、家庭教育学級を各学校で年6回程度実施する予定でございます。

また、人権週間に合わせ、人権教育啓発の推進を図る目的で、町内の各小学校の5、6年生を対象に人権作文の募集や、中学生に対しては学年ごとに人権標語の募集を行い、人権教育の推進を図っていきます。

次に、社会教育団体の育成に関する予算でございますが、子ども会、高校生クラブ、青年団等に運営補助を行うこととしておりますが、本年度もコロナ下のため活動が思うように進んでいないのが現状でございます。

②の生涯スポーツ関連予算でございます。大崎町総合体育館入り口のスロープが雨天時になると滑りやすく、転倒し危険な状況であります。このため、滑り止め防止の工事を行うための予算として600万円を計上いたしました。既に工事の方は完了しているところでございます。

次に、大隅スポーツ交流拠点プロジェクトにつきましては、主に本町のビーチスポーツ専用競技場を舞台とした、春のビーチバレーボール大会や夏のビーチスポーツフェスタを開催するための予算として180万円を計上いたしました。

ビーチスポーツフェスタにつきましては、本年度準備を進めておりましたが、こちらの方も新型コロナの影響で中止となったところでございます。

次に、新型コロナウイルス感染症対策事業としまして、令和2年度からの繰越予算になりますが、総合体育館トイレ様式化工事264万円、総合体育館のトレーニング室換気扇設置工事29万7千円を計上しております。

いずれの工事につきましても既に完了しております。

③の特別国民体育大会関連予算でございます。特別国民体育大会の日程につきましては、今のところビーチバレーボールが2023年9月16日～19日の4日間、ドッチボールが2023年の6月中旬の開催予定となっております。

本年度は、特別国民体育大会関連予算として、実行委員会への補助金105万4千円を計上いたしました。これは、本年度開催される三重国体や栃木県のリハーサル大会を視察研修するための旅費が主なものでございます。

6ページをお願いいたします。

④の公民館活動の関連予算でございます。町内6つの公民分館の運営の充実を図るための予算としまして、217万9千円を計上いたしました。補助金額の積算につきましては、均等割、住民基本台帳による人口、児童数などを基に算出しております。

次に、大崎町研修センター解体工事設計業務委託料として120万円を計上いたしました。この施設は、大崎保育園に隣接しており、昭和46年度に鉄筋コンクリート造で建設されております。築50年が経過しておりまして、経年劣化による老朽化が激しく使用していない状況にあることから、解体工事に係る設計業務委託の予算を計上したところでございます。

⑤の芸術文化の振興及び文化財の関連予算でございます。

文化協会の運営の充実を図るための予算として10万7千円を計上いたしました。

町の文化祭につきましては、文化協会が中心となり、企画・運営しているところでございます。

本年度は11月2日と3日の両日で開催を計画しておりましたが、8月11日の文化協会の役員会におきまして、新型コロナウイルスの感染拡大の観点から中止を決定したところでございます。

次に、大崎町史編纂調査員謝金の予算として2万円を計上いたしました。

本町の郷土の繁栄と先人が残した尊い業績を伝承していくための郷土史として「大崎町史(明治100年)」が昭和50年に発行されております。

今回をその後続編としまして、終戦の昭和20年から現代までを一期とする郷土史を編纂する予定にしております。

発行につきましては、町制施行90周年に合わせて5年後の令和8年度を目標にしております。

⑥の図書館活動の充実でございます。図書購入費の予算といたしまして239万6千円を計上いたしました。

次に、絵本を開く体験と親子のふれあいを深める取り組みとして、乳幼児健診時に対象親子に読み聞かせを行い、絵本2冊と布バックをプレゼントする「ブックスタート事業」の予算として13万円を計上いたしました。

また、児童・生徒の読書意欲を喚起するため、読書感想文及び感想画、並びに伝記読書感想文を募集し、文画集を発行するための予算として16万1千円を計上いたしました。

募集を7月～10月まで行いまして令和4年1月に発行する予定でございます。

次に、毎月第3日曜日の家庭の日になみ、読み聞かせを推進するため、図書館において「ふれあいおはなし会」を乳幼児から小学校低学年を対象に行っております。

次に、広域での図書館の相互利用及び図書館システムを利用した相互サービスの提供を行い、図書館の利用拡大や読書活動の普及を図るための予算としまして、運営協議会への負担金38万8千円を計上いたしました。

令和2年度の実績で申し上げますと、町外の図書館を利用した方が281名、冊数では1,471冊となっております。大隅広域図書館ネットワークの構成市町は、鹿屋市・垂水市・大崎町・南大隅町・肝付町・東串良町・錦江町の2市5町で構成しています。

以上で社会教育課関係の説明をおわります。

議長（町長）

只今、各課課長から令和3年度教育予算の概要について説明がありましたが、質問等ありますか。

予算関係は先ほども説明ありましたが、防犯カメラは各小学校に設置してあります。児童の殺傷事件等の事前防止する観点で設置をすすめ、志布志警察署生活安全課とも連携し、機会がありましたら学校の何処にカメラがあるか、ご確認ください。大崎小学校には2カ所設置しております。

総務課関係の説明については、広報おおさきを用いての説明や、防犯カメラ等の内容でしたが、身近に感じられる管理課、社会教育課とか伺ってみたい所があれば遠慮なく聞いてください。

全体を通して小中学校、公共施設のトイレの洋式化を進めております。高齢化に伴い膝が悪いとか仕方がない所もあり、各公共グランド、各校区の改善センター、小中学校の洋式化を進めて行き、その中でも和式が必要だと意見もあり和式も残す。家庭においては洋式ですが、子供たちは洋式なのですが、行政ではどうしても和式が必要と言われる意見もあり、その辺を柔軟に対処しています。

それでは（1）番について説明が終わりましたので、ご質問、ご意見などございませんか。

溝口教育委員

これまでの設備投資で町内の大丸小学校、中沖小学校、野方小学校大規模改修により学校が新しくなり子供達も一段と輝いて見えるようになって、その中で子供達、教職員のモチベーションも上がった印象を強く持っています。ありがたいと思っている。タブレット端末、住宅の改修工事とか、学校保育園など予算を掛けて頂いてる。その中で、学校訪問5月から7月はじめにかけて行いましたが、大崎小学校の図書室から校長室の雨漏りが見られます。予算の優先順位もあるが、不都合が生じています。早急に対処をお願いしたい。

議長（町長）

学校から雨漏りとか報告がありましたか。

管理課長

先日校長先生から報告があり、業者さんにみて貰ったら大々的に仕切らないと止まらない。校長室は窓側だけど何処から漏れているか不明である。

議長（町長）

雨漏りは落ちる場所は部分的だけど屋根全体でみると何処から入ってきているか不明で、専門的に委託するなど対処していきたい。ご指摘ありがとうございました。

町長

2番目の町政紹介ですが、私の方で大きな課題を説明させて頂き、解決に向けて我々努力していく、その部分をお話させていただきたいと思います。

資料が人口増減の要因内訳と推移となっております。その前に、皆様に、今日の南日本新聞に和田騎手、地方競馬1000勝の記事がありました。それについて若干お話をさせて頂きたい。横瀬に和田牧場にお祝いの電話を入れてお父様から近況を伺いました。新聞にも書いてありますが、本人は大腿骨の骨折もあり1年半に渡って馬に乗る事もできなかった。曲げることもできずそのケガを克服し、乗り越えて1000勝達成したという話で、プロの世界は本当に厳しいものだと聞かされました。朝2時起床で馬を一人で16頭管理していて、騎乗も調教もする状況で16頭調教を終わらせてシャワー、朝食などなんだそうです。あと、全国の競馬場で、全国を回っていて、現在1日3勝していて、次は2000勝をめざして7年位で達成するじゃないかと、お父様のお話でした。他方では、競馬会の百数十人の中の選手会長をされていて、引退後は調教師になれる資格を得ている、野方の●●君が研修生で浦和に行っている、来年あたりデビュー予定で励ましている。競馬会で地元の人が活躍して後継者も出る。和田騎手のマネジャーは永吉の●●君で色々調整し関係者や道具は個人負担で持たなければダメなんだそうです。そういうことがありましたが、今日は明るい話題として紹介させて頂きました。

実は私が一番の課題と捉えているのは人口問題であります。ここでは子供達の教育の場とか大きな影響を与えますので、皆様に今の大崎町の現状を知っておいて頂きたいと思い資料を配りました。

人口の増減要因別の推移ですが、昭和54年から令和2年度までの数字を挙げていますが、途中で平成元年がありますが、この時代は1万7600人位、人口がありますが、10年ごとに見ていきますと、1万6000人台に落ち、平成20年代は1万5000人台になり、平成30年代は極端に1万3000人台に落ちた状態で、大崎町全体の人口も急激に減少しています。

一番の人口減少の要因に死亡があります。この死亡の欄を追って行きますと、令和2年度でお亡くなりになった方は225名、令和元年度で223名、平成30年度で224名、平成29年度で243名と毎年大崎町でお亡くなりになる方が200人を超えている状況ですが、出生が令和2年度は大崎町では54名と少なくなってきました。

今年はコロナの影響があるとか新聞にも出ていましたが、これが実数になるのではないかと。令和元年度で70名、その上が77名、95名、86名、105名になりますが、100名をキープしてたのですが、出生数が減少し、令和元年度で70名、令和2年度で54名になり、54名は極端に少ないですが、幾分かコロナの影響あるかもしれませんが、極端に減少してきている状況があります。大崎町に小学校がたくさんありますけど、子供たちが学校に上がる時各学校35名を割り込んでしまう状況があって、大崎小学校以外は各学級10名を維持することができるかどうか心配されてる。将来考えると危機的な状況があります。

転入が、令和2年度で582名、転出が619名、その差が37名なのですが、転入と転出は均衡が保たれている状況で、住宅政策などしている中で転入はあるが、高校生や大学生が転出して行きますが、中には住民票を残している方もいらっしゃいますが、転入、転出はさほど大きな差が出ていないが、死亡から、出生数を差し引いた時の減少率が高い状況が続いています。危機を感じています。子供達や若い人が住んでくれるまちづくりを進めてきているが中々実現できていない、大崎町に限らず他の地域も減少しているのは事実なのですが、学校も6ヶ所あるが、将来的に何とかしないとイケない。人口増加対策を講じなければいけないと思いを持って、前向きに取り組んで行きたいと考えている。今の状況をご理解して頂きたいです。

次に大崎町全体の人口の年代別構成、ゼロ歳から4歳が397名それを5で割ると約80名、5歳から9歳488名5年刻みなもので、単年度で割って行くと非常に少ない、100人を切っている状況があります。10歳から14歳、15歳から19歳学校に通う世代が少ないですけれど、小学校、中学校、高校、大学と考えた時、20代からは伸ばしてないないですけど、現在大崎町に住民票がある子供たちがこれ位、これを5で割ってくると非常に少ない子供達になっている状況です。

課題としてこの層が増えてるような政策を考えて行かなければならないが、20代30代40代と子育て世代が少ないのが現実でございます。農村集落においても減少傾向にある。中心部に人は増えたが、農村集落は減少している。

子育て世代の人が増えれば子供も増えるが、その層が減少しているので大崎町の人口バランスがアンバランスになっていて、何とかしないと行けない状況になっている。大崎小学校全体で302名、菱田小学校で66名、中沖小学校で57名、持留小学校で28名、大丸小学校で65名、野方小学校で66名、小学校全体で584名、各学年で見ると約9名、12名、15名が一番多く辛うじて35名を保っているのが大崎小学校しかない。大崎小学校の一年生が41名で2学級で35人学級になったとき、1学級20人とか25人と少ない人数になり、持留小学校では7名、4名、5名、5名と複式学級が

あつたりするが、学校維持を考えると1学級15名から20名、子供達や教育上望ましいと思う。規模の小さい教育環境は望ましいと言われるが、少なすぎても競争力の問題とか出てきますので、15名から20名の学級が維持できたら望ましい。

これから先、学校統合など話題に出てくるかもしれませんが、できるだけそれは避けていきたい。小学校が小規模でも歩いて登校できるが、基本でもありますので、小学校は維持して行きたい。中学校は一本化しましたが、学級維持、人口増などやらないといけない大きな課題であるし、54名と先ほど説明しましたが、54名から如何に脱却するか調整していくかこれからの行政の最大の課題です。

住宅政策もやりますが、他自治体もやっている。土地分譲も同じで外部から町内に来てもらうのは難しい事で、分譲価格を安くするとか家賃を安くするなどの政策をして、他自治体と違う事をしないと転入してもらう事は難しい。次に考える事はいかに移住を進めていくか、現在SDGS推進協議会には5名の方が住民票を置いてる方々がおられます。大崎町に魅力を感じて移住してくれる人達がいる訳ですが、そういう町を作って行かなければならないのです。大崎町の魅力は、さて何だろうかと思う時がありますが、総合計画の中では、言われているのが、買い物をする所がない、ショッピングを楽しむ場所がない、おむつを買う場所がない、子供達からアンケートの中から出てきています。女性の方々から、この町は住み良いと思うまちづくりが、第一だと。いかにそういう町づくりをしていくか、働く場所をいかに確保していくかが課題としてありますので、しっかりと考えていく。

企業誘致もしておりますけれど、町内には福岡運輸、九州エキスと大きな会社が2社進出しました。職員、社員募集を掛けているが、中々人が集まらない。若い人が就きたい仕事と企業の労働環境がうまくかみ合わなく、企業は人が欲しいが、若い人が中々集まらない状態で企業が来たから人が集まるとは限りません。現状を課題にしながら住宅制度や低額な家賃であつたり、民間事業者などと協議をしながら取り組んでまいります。

空き家が非常に多い、どこに行っても空き家だらけ。公共下水道区域に子供達も住まない老朽化した空き家が多々あります。その空き家を交渉して解体するのもお金が掛かるので、解体は町でやります、土地は町に譲渡してくださいと交渉している、解体費用を町で持ち、更地にして安くで分譲販売する予算も今策定しています。そういった制度もある事をご理解ください。

今日の南日本新聞に掲載されたのですが、ヤフーから4600万円の寄付を頂きました。サーキュラービレッジ構想、人がたくさん来てくれる町をつくりたいという思いがあります。リサイクルが12年間連続日本一と1年間空いて、今は13回日本一と表現しています。町民の皆様が分別して頂き、これはどこの自治体でもできてる訳ではなくて、本町と志布志市が主に取り組んでいます。他自治体でも段々と分別をするようになってきている。家庭で分別をして収集で持っていきリサイクルセンターに運んで分別して売却しています。脱炭素社会で、物を燃やさない取り組みを20数年やっておりますので注目を浴びており、視察研修にも沢山来て頂いて、コロナの時代でも問い合わせ

せはありますが、今は受け入れをしておらずご理解を得ています。研修に様々な地域、国外からもいらっしやいます。

町を成長させて行きたいという思いがあります。

過去にあったのですが、現地で2時間程度研修し、良い研修だった、と。その後、本町を移動して鹿児島市や天文館に行かれる方々もおられ、次からはそういう方々は受け入れない方針も検討したい。長年に渡って築いてきた日本のモデル、アジアのモデルとして進んでいくと思われるので、日本は燃やさない、捨てない、脱炭素という中で我々の取り組みは大きな指導力を発揮できる状況でございます。皆様のお陰です。

来られた方々の研修所、研修場所を作りながら、有料制で宿泊滞在型の研修を実施していきたいと考えております。専門的な方々も沢山大崎に来ておられますし、そういう方々が指導できる場所を作りながら滞在する事によって、持ち帰って自治体の仕事に取り組みれると思います。我々としても宿泊すると、そこで雇用も生まれますので、滞在型とかあるいはプラスチック類をあまり作らない、ペットボトルを作らない、極力紙製品に替えて行くとか、使い捨てしない容器とか求められている中、我々が持っているノウハウで研究家の方々に来て頂いて、研究しましょう、研究所を作りましょうと構想を持っております。

循環型で有機野菜を栽培し、レストランで提供してSDGSスクール等ありますので、教育環境を充実して全国からの子供達に紡いでいくような環境を作り、それを実現する事により若い人にこういう場で働きたいと思ってもらい、若年層の定住化を図りたいと思っています。

主なものがリサイクル未来奨学金制度であります。先ほど上野課長より46名利用してあります、とありました。大崎町に帰って来る、在住しながら近隣で勤務する条件で、リサイクル未来奨学金制度より、年間60万円4年間240万円を補助し、返済不要な制度が今46人おられて、全員帰ってこられたら、持続可能な大崎町がつくれ、結婚、子育てができる社会環境がつくれ、いま基礎作りができつつありますので、利用を促進し5割6割でも帰って来てもらえたら大崎町を支える、地元出身で、郷土愛のある人が帰ってきて大崎町を盛り上げる基礎ができるので実現していった持続可能な大崎町を作りたいです。母体はリサイクル未来奨学金制度を基軸にしながら人が紡ぐ様な町づくりをやっていききたい。

実現するためにヤフーに挑戦し、SDGS協議会のメンバーが計画書を作りながらやって何回か選考過程を通じてオンラインでやり取りをし、昨日最終的に30自治体の中に選ばれて、高い評価を得て4600万円の寄付が決定いたしました。構想を実現するために専門的な人材をそのお金を使い呼び込んで移住してもらいやっていく、これからも続けて行くこととなります。

人口を考えて、注目される町をつくっていききたい。ジャパンアスリートトレーニングセンターやリサイクルやふるさと納税とか強みがありますので、その強みを最大限活かして挑戦の年にしていきたいと思っております。

聞いて頂きまして、ありがとうございました。

議長（町長）

三番目のその他、何かありますか。

ないようですので協議については終わらせて頂きます。

総務課長補佐

その他も何もございませんでしたので、これをもちまして、第1回目の総合教育会議を終了いたします。